

平成31年度

特別養護老人ホームえんじゅ

# 事業報告書

社会福祉法人伯和会

特別養護老人ホームえんじゅ

## 平成31年度特別養護老人ホームえんじゅ施設運営方針

### I. 施設サービス向上のために

- 1、法人の信条である「奉仕・博愛・寛容」を基本とし、えんじゅ理念「笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します」「心地良い生活と環境を提供します」「自由で楽しい暮らしを目指します」の3つの柱をもとに、ご入居者それぞれのニーズに合った施設サービス計画書（ケアプラン）を作成し、今までの生活習慣や個人の意思を大切にするとともに、自己決定、自己選択や残存能力の活用を図ることで、少しでも自立した質の高い生活が送れるよう支援に努めました。
- 2、介護給付対象サービスとして、入居者に対し、入浴、排泄、食事等の介護、相談等の精神的ケア、社会生活上の便宜、日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上のお世話を提供しました。
- 3、社会福祉法人制度改革、費用負担の公平化、介護保険の改定など施設運営が大きく変化している情勢に対応する為、施設運営における課題、問題点の把握、検証と改善に向けた実践に取り組み、安定した運営と魅力ある施設作りに努めました。また、社会に対し社会福祉法人として求められていることを一つずつ実践していくよう努めました。加えて、職員の自己研鑽による一人一人の質の向上と、地域住民として共に暮らすことを視点とした開かれた施設を目標として、安らぎのある地域社会を作り出せるような施設運営を行いました。

#### 《特別養護老人ホームえんじゅ 理念》

- ・笑顔で明るく、元気良く、優しさを持って接します。  
(笑顔で優しい声掛けを行います)
- ・心地良い生活と環境を提供します。  
(清潔保持に努めます)
- ・自由で楽しい暮らしを目指します。  
(自己決定を尊重します)

#### 《ワーカー心得》

- ・相手の立場になって物事を考えます。
- ・何故、どうしての問題意識を持ちます。
- ・分からないことはすぐ聞きます。
- ・積極的に行動します。
- ・情報を共有します。

## II. 在宅福祉サービスの向上のために

1. 各関係機関との協力体制構築を図りました。
2. 地域に支えられた施設であるとの認識を持ち、専門的な働きかけに努めます。
3. 在宅福祉の充実の為に施設の資源を提供し、地域との交流を積極的に推進しました。
4. 短期入居事業を行うと共に各種の福祉サービスの利用法について啓蒙しました。

## III. 職員が安心して働けるために

1. 働きやすい職場作りと、勤労意欲の向上を図りました。
2. スポーツ等を通じ、他施設との親睦に努めました。
3. 給与充実の為、介護給付費の処遇改善加算について「加算Ⅰ」が継続できるよう、体制の整備を行いました。加えて、令和元年10月請求分より、特定処遇改善加算Ⅰを新たに算定しました。
4. 年2回の職員健康診断を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めました。

## IV. 適正な事務の遂行

適正な施設運営を実施するために

1. 各種規定に基づいた事務を実践しました。
2. 予算の適正な管理及び執行をしました。
3. 業務の効率化を図りました。
4. 職種間の連絡、周知を徹底しました。

## V. 施設設備・備品の保全・改修

### 1. ナースコールの入れ替え

ナースコールの一部に不具合が出ていたが、設備が旧式であり、部分的な修理が難しい状況であることと、既存のナースコールではコールが目視できる条件下でしかコールが鳴っている箇所を特定できない為、職員の動きに無駄が多く、リスク高い入居者の対応が後手に回る状況であることから、入居者の安全対策、職員の業務負担軽減の為、新たなナースコールを導入しました。

### 2. 空調設備の老朽化

夏場における冷房設備が1台故障し、修理部品等の供給が終了していることから修理不可能となり、残り1台も稼働していたが、いつ故障するかわか

らない状況で、修理も難しい状態であったことから、食堂に業務用エアコン6台を設置し、昨今の高齢者施設における環境不備・対応の遅れなどによる重大事故や責任問題に発展することを未然に防止しました。

## VI. 地域との連携交流を行うために

地域との連携、交流の取り組み

1. 地域交流の一環として、白石市福祉まつりへ、生涯学習成果の入居者製作作品の出展を行いました。

## VII. 安定的経営基盤の確保のために

1. 安定した収入の確保に努めました。
  - ・入退居の期間を少なくし、一定期間内で円滑に入退居が行えるようにしました。  
(※入所までの平均日数：上半期：平均 24 日、下半期：平均 7.9 日、全体平均：17.3 日)
  - ・水光熱費、備品等の管理、見直しを適宜行い、経費節減を図りました。
  - ・各種加算の整備を行い、取得できるように努めました (R1.10 より特定処遇改善加算 I を算定)。
2. 施設の設備・備品等の更新・改善を行いました。
  - ・入居者の重度化に伴い、各種福祉用具等備品の整備と、状態に合わせた用具の購入を検討しました。
3. 人材の確保に努めました。
  - ・ハローワークへの情報提供を積極的に行いました。
  - ・キャリアパス制度の構築、定期的な研修の実施により、知識、技術の習得が行えるようにしました。
4. 自然災害等防災対策に対し備えました。
  - ・非常災害時(地震、火災、噴火等)を想定した研修や訓練を計画、実施し、非常時の入居者、職員が安全に行動し避難が行えるように努めました。

## VIII. 短期入所介護

短期入所中以外は在宅生活が主となる事を鑑み、在宅における生活と利用中の生活が出来る限り連続したものとなるよう配慮し、利用者同士が相互に社会的関係を築き、自立的な日常生活を営めるよう支援しました。また、住み慣れた自宅やご家族らと離れる事による、心理的負担が大きいものと考え、一人ひとりと向き合い、そして寄り添い、個々のニーズにあった支援に努めました。

- ① 平成 30 年 4 月 1 日より、短期入居者の基本定員が 10 名になったことに伴い、居宅支援事業

者との連携を密にしながら受け入れ調整を実施しました。居室は専用の居室とし4人部屋2室、個室2室を使用しました。その時々のご利用者の方々の身体状況、精神状況などを重要視しながら、安心かつ安全な、在宅と施設の生活が連続性のあるものとなるよう支援しました。

- ② 施設サービス提供にあたり、ご利用者の皆様には介護支援専門員を中心とし、ご利用者の皆様の在宅ケアプランに添った施設ケアプランを作成しました。食事、入浴、排泄などその方に合った形でのサービス提供に努めました。また、入居時より、バイタルチェックを行うと共に自宅における状況、変化、必要な処置等の有無など確認し、利用者の皆様の健康管理に留意しました。
- ③ 日常生活支援については、一人ひとりの利用者の方々に併せた余暇時間を通しての協同作成物の一連の作業～掲示、レクリエーションの実施、季節に応じた行事の開催、手作り昼食会の開催など、個人の持つ潜在能力に働きかける支援内容にて、個人の存在意義の理解、役割のある日常を心がけ支援しました。退所時においては、短期入居利用中における生活の様子をお伝えし、在宅へ帰宅したからの生活が継続出来る様に支援しました。
- ④ 定期の利用者に加え、ミドルステイの受け入れ、緊急利用の受け入れ、自立支援者の受け入れに対応しました。長期空きベッドの空床利用も実施しました。

## IX. 業績

### <資金収支>

事業活動収入	249,839 千円 (対前年度比 3,769 千円) (平成 30 年度実績 246,070 千円)
事業活動支出	248,556 千円 (対前年度比 21,602 千円) (平成 30 年度実績 226,954 千円)
事業活動収支差額	1,283 千円 (対前年度比 ▲17,833 千円) (平成 30 年度実績 19,116 千円)

### 増減の主な要因

事業活動収入 長期入居については、年間利用率 95.31%で、前年 93.59%より 1.72%の稼働率増となりました。事前実態調査が比較的スムーズに実施できるようになった下半期以降は、特にその効果が表れました。また、暖冬の影響もあつてか、冬季間に体調を崩す入居者が少なく、例年に比べて冬季間の入退所件数が少なかったことも安定した稼働率確保に繋がりました。

短期入居については、年間利用率が 78.25%で前年 68.95%より 9.3%増の状況となりました。前半は稼働率が低迷しましたが、形式的な受け入れにこだわらず、突発的な利用依頼にも柔軟に対応したことで稼働率アップに繋がりました。また、10月の台風 19号被害による緊急受け入れを実施したこと、長期入居者入院による空きベッドを空床利用として有効活用したことも稼働率アップにつながりました。

事業活動支出 新しいナースコールの導入及び、食堂のエアコン設置により前年度より支出が増加しましたが、委員会や打ち合わせ等を出来る限り業務内で実施し、時間外勤務を減らす事や、水光熱費など節約し、出来る限りの支出を抑えられるように努めました。

平成 31 年度長期入居状況ならびに平成 31 年度短期入居状況については、別添の「施設入所実績報告書」「短期利用実績報告書」をご参照ください。

## 平成 31 年度施設援助方針

### I. 日常生活介護

施設サービスは、えんじゅ職員が、ご入居者一人ひとりの施設サービス計画に基づいて提供しました。ご入居者の意思を尊重し、自立支援を念頭に、個々のニーズに沿った支援に努めました。ご入居者の変化しやすい心身状況や日々変化する日常に併せて、適切なサービスの提供に努めました。

#### 1. 食事

食事は、原則的に全員が食堂で顔を合わせて召し上がっていただきました。ご入居者の状態に合わせて自助具等を使い残存機能を最大限に活用して、できる限り自力摂取ができるよう支援しました。食生活の重要性を認識し、管理栄養士による栄養ケア計画を作成し、ご入居者の健康状態を多角的に評価し、食からの健康維持・意欲向上を図れる事を目標に食事提供を実施しました。栄養バランス・味付け・調理方法等について、身体的条件、嗜好等を配慮し、ご入居者が健康で楽しい生活を送る上で最も大切なもののひとつとして提供に努めました。その時々季節も感じて頂ける様季節食や行事食も提供しました。

#### 2. 排泄

排泄は、可能な限りトイレをご利用いただきました。そのために常にトイレの清潔の保持に努めるとともに、トイレ内にある手すりや緊急コールボタンを利用し、安心して快適に使っていただけるように配慮しました。また、個人の排泄パターンを把握するために調査を実施、排泄記録をつけポータブルトイレ、尿瓶等の活用、リハビリパンツ、尿取りパッド等とトイレ誘導の併用により、できるだけオムツを使わない方法を目指しました。オムツは、

座位が取れない、尿意・便意が無い、ご入居者の体調不良等、やむを得ない場合に限り使用させていただきました。オムツ交換及びトイレ誘導は、各個人ごとに調査した排泄パターンを元に、時間や支援内容を設定し実施しました。

### 3. 入浴

一般浴槽故障中につき、機械浴、中間浴（チェアインバス）の2種類の入浴方法を用意し、ご入居者の身体の状態に応じた入浴サービスを提供しました。入浴日は、ご入居者1人あたり週2回を基本とし、ゆとりをもった、楽しみのある入浴サービスを提供しました。入浴できない方に対しては清拭や衣類交換を行いました。

### 4. 着替え

利用者一人ひとりの身体の状態をよく見極め、衛生面に留意しながら着替えの支援を行いました。着替えを行うことで衛生面だけではなく、気持ちのリフレッシュを図りメリハリを付ける事で生活全体にリズムを取りやすくし、意欲の向上へ繋げられるよう支援しました。

### 5. 移動、移乗、体位変換

ベッド、椅子、車椅子、便器、浴槽等の間の移動・移乗は安全性を十分考慮し、ご入居者の身体の状態に合った方法で行いました。また、杖、歩行器、シルバーカー等の補助具を有効に活用し、できる限り自立移動ができるよう支援しました。

自分で寝返りをうつことのできないご入居者に対しては、褥瘡（床ずれ）を防止するために、体位変換の介助、体位変換チェック表の使用も行い、確実に実施できるよう努めました。必要に応じて、クッション、エアマット、褥瘡予防マット等を使用しました。

ご入居者ごとの最適な移動・移乗および体位変換介助方法を、すべての職員が同じレベルで介助できるようにしました。

### 6. 口腔衛生

口腔衛生介助は、毎夕食後に実施し、看取りの方や体調不良者等に対しては、必要に応じて適宜口腔ケアを実施しました。ご入居者の状態に合わせて、必要なかつ適切な口腔ケア用品の使用を行い、歯磨き、うがい、ガーゼによる口腔内の拭き取り、義歯の洗浄などを支援しました。口腔衛生は、ご入居者の健康増進・維持に不可欠であるため、囑託の歯科医師の協力を得て、ご入居者の口腔衛生介助の充実を図りました。

### 7. 整容

整髪、爪切り、髭剃り等を適宜行いました。また、外出や行事の際には、ご要望により、お化粧品やお洒落のお手伝いをしました。

### 8. 介護用品の選定及び衛生維持、安全点検

ベッド、エアマット、クッション、車椅子、歩行器、杖、介護テーブル、

ポータブルトイレ、入浴補助具等の介護用品については、使いやすさと安全性から選定し、その清潔の維持および安全点検に努めました。

## II. 日常生活援助

施設での生活の充実を図るため、ご入居者一人ひとりの生活状況に応じた支援を行いました。

### 1. 居室環境の整備

ご入居者の意向を尊重しながら、心身の状態、人間関係に配慮しつつ、ご入居される皆様が快適な居心地の良い居住空間を確保できるように努めました。又、介護の安全性を確保するため、必要に応じて居室の変更を実施しました。

### 2. 買い物及び代行

ご入居者のご要望に応じて、随時、外出による買い物支援の実施、何らかの理由により買い物ができない利用者の方々へは、日用品の買い物を職員にて代行しました。また週に1回近隣の商店（岡崎商店様）の協力をいただき、施設での買い物も出来るようにしました。

### 3. 洗濯

日常の衣類の洗濯、乾燥、居室への返却を行ないました。衣類の素材の状況に応じて、傷まないような適切な洗濯方法を選び、洗濯を行わせていただきました。

### 4. 理容

頭部の清潔とお洒落を楽しんでいただくため、原則として毎月第2月曜日、理容師によるサービスを提供しました（ご入居者実費負担）。ご本人の希望を伺い、理容組合の方々とも相談しながら、頭の形や髪質などにも気を配りながら行わせていただきました。

### 5. 外出、外泊

外出・外泊については、心身の状況、外出・外泊先を考慮しながら、できる限りご入居者の意向に沿うようにしました。

### 6. 金銭管理

ご希望がある場合は、現金、預・貯金の通帳、印鑑等の管理の他、施設利用料や公共料金等の支払い等を担当者にて適切に代行しました。（預り金等取扱規程に基づき、利用料を負担していただきました。）

### 7. 行政手続等の代行

ご入居者のご要望に応じて、市町村等に提出する書類の代筆、申請の代行、郵便物等の投函等を、その都度、担当者にて適切に代行しました。

### 8. 要介護認定に関する代行、認定調査の付き添い

要介護認定の更新・変更申請をご入居者、ご家族に代わって行いました。また、更新調査における付き添いを行わせていただき、ご本人の状況などを



更に詳しく調査員の方へお伝えさせていただきました。

### Ⅲ. 健康管理

ご入居者が健康で快適な生活を営めるよう、疾病の早期発見・早期対応に努め、生活の自立性を低下させないように支援しました。

#### 1. 日常の健康管理

ご入居者の健康状態の細かな観察に努め、嘱託医および協力病院への連絡、職員間の情報交換を図りながら、健康維持に努めました。

#### 2. 定期健康診断

胸部レントゲン撮影、心電図、血液検査を、年に1回実施しました。

#### 3. 体重測定

毎月実施し、先月との著しい増減等がないか確認しました。体重変化に著しく違いが生じるご入居者や、栄養状態のチェックが必要なご入居者に対しては、その都度実施しました。

#### 4. 体温・血圧・脈拍等の測定

週2回の入浴前に定期的に体温、血圧、脈拍等の測定を実施しました。その他、体調に変化が見られた際は必要に応じ、定期的に測定を行いました。

#### 5. 食事・水分摂取・排泄の把握

チェック表により、毎日の食事・水分の摂取量を把握しました。摂食不良時は、医師の指示の下、看護職員、管理栄養士、介護職員、介護支援専門員が連携して、その時の状態に合った食事提供（必要な栄養素の確保）・水分補給ができるように対応しました。

その後の経過をみながら食事内容については必要に応じて調整を行い、食事摂取量の安定に繋げていけるようにしました。

便秘時には下剤の服用の他、なるべく自然排便を促すような漢方のお茶や乳酸菌飲料等を提供し排便のコントロールを行いました。

#### 6. 医師の診察

月4回、主治医（内科医）が来診する他、月に1回、精神科医が来診しました。通院あるいは入院しての診療が必要な場合は、看護・介護職員が付き添い、施設車両にて送迎しました。

#### 7. 口腔衛生

ご入居者の状態に合わせて歯科医師の指導・協力のもと、ご入居者一人ひとりの口腔衛生状態、支援内容の充実を図ると共に、誤嚥性肺炎の予防等に努めました。

#### 8. 服薬

医師の診察のもと、病状に応じて、ご入居者に服薬していただきました。

#### 9. 医療機関との連携

協力医療機関やご入居者の主治医との連携を密にし、日常の健康管理につ

いて適切な指示を得るとともに、緊急時の受け入れ先を確保しました。（救急車を利用する場合、他の医療機関へ搬送される場合もありました。）

#### 1 0. 夜間緊急時の対応

看護職員が不在になる夜間・早朝帯のご入居者の容態の急変に待機の看護師が対応しました（オンコール体制）。

#### 1 1. 感染症等の予防

風邪やインフルエンザ、感染症予防対策として、ご来所者や職員に対して、うがいや手洗いの励行等の周知に努めました。11月には、希望するご入居者に対してインフルエンザ予防接種を実施しました。高齢者施設で発生すると蔓延しやすい疥癬や食中毒等は特に注意し予防に努めました。また、感染症対策のマニュアルの見直しを行いました。

感染症における状況、利用者の方々の状態に応じては、施設への来設やご面会を規制させていただきました。

#### 1 2. 職員の健康管理

年2回の職員健康診断を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めました。定期健康診断の結果に基づき、産業医面談を実施しました。直接介護職員については、年に2回腰椎検査を実施しました。また、ストレスチェックを実施し、職員のメンタルヘルス不調のリスク軽減及び、検査結果に基づいた分析を行う事で職場環境の改善に繋がりました。

《嘱託医》

1、内科医

水野内科クリニック

水野圭司 先生 毎週月曜日 午後

2、精神科医

仙南サナトリウム

渡辺吉彦 先生 毎月第三金曜日

3、リハビリテーション担当

柔道整復師

黒木雄大 先生 毎週水曜日

《協力病院》

1、刈田総合病院（白石市）

2、歯科医

広瀬歯科医院

廣瀬清憲 先生 随時

## 平成 31 年度避難訓練実施状況

### <夜間想定避難訓練>

- 1、日時 令和 1 年 5 月 31 日 午前 6 : 00 ~ 7 : 00
- 2、目的 施設入居者の大半が障害を持ち、寝たきりや車椅子、杖などを使用しています。これらの特殊性を鑑み、災害に対応する為、えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園との共同防災により、通報、避難、誘導を行うことで、防災体制の確立を目的として行いました。また、緊急連絡網を使用して召集を掛けた際、実施にどの程度時間がかかり、どのような問題点があるのかを検証する為、実施日を事前に周知せず、より実践に近い形での訓練を実施しました。
- 3、訓練内容 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練・緊急連絡訓練
- 4、出火時間 午前 6 時
- 5、出火場所 特別養護老人ホームみずき 3 丁目洗濯室
- 6、避難場所 えんじゅ正面玄関前
- 7、職員構成 夜間職員、管理当直員勤務中による訓練  
その他の職員は時間差により到着次第避難誘導

### <避難訓練>

- 1、日時 令和 1 年 11 月 7 日 午後 3 時 30 分
- 2、目的 空気の乾燥が増し、火気の取り扱い機会も増える時期となる為、火災への注意を促し、より一層の防災予防の意識を高めることを目的とし、東北防災センター立ち合いの下、えんじゅ併設施設の特別養護老人ホームみずきやケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園との共同防災で実施し、通報、避難、誘導を行うことで、防災体制の確立を図りました。
- 3、訓練内容 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練
- 4、出火時間 午後 3 時 30 分
- 5、出火場所 デイサービスセンター茶園パントリー内電気コンロ
- 6、避難場所 えんじゅ西側非常口
- 7、職員構成 勤務中職員による訓練

# 施設入所実績報告書

利用年月：令和2年3月  
 サービス：51 福祉施設  
 事業者：特養 えんじゅ  
 表示項目：収入実績等

## 1. 収入実績

令和2年	介護サービス費				特定入所介護サービス費				合計	平均/日					
	保険請求	公費請求	利用負担	公費負担	食費		居住費				軽減額				
					保険請求	公費請求	利用負担	公費請求				利用負担			
今月(3月)	15,770,959	105,342	1,552,309	60,000	1,492,160	51,900	787,540	948,533	0	604,210	24,495	3,210	4,369	21,396,289	690,202
先月(2月)	14,875,257	77,226	1,493,177	60,000	1,400,202	43,500	764,010	886,125	0	591,880	24,435	580,568	31,099	20,765,281	716,044
平成31年3月	14,650,840	128,136	1,507,029	58,855	1,386,540	58,800	671,580	873,620	0	513,230	9,569	727,956	62,001	20,524,154	662,069

## 2. 利用者介護度別

要介護度	平成30年度 3月	平成31年度												合計	平均/月			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
		要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0
要介護2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.00
要介護3	8	8	9	9	9	9	10	9	9	9	9	9	9	7	7	6	101	8.42
要介護4	32	35	34	34	33	33	31	28	29	27	29	27	29	29	30	32	375	31.25
要介護5	20	16	16	16	17	16	18	22	23	25	23	25	23	24	24	23	239	19.92
在籍計	61	60	60	60	60	59	60	60	62	62	60	62	62	62	62	62	727	60.58
総介護度	254	246	245	246	246	241	246	251	260	262	254	262	263	263	263	263	3,022	251.83
平均介護度	4.16	4.10	4.08	4.08	4.10	4.08	4.10	4.18	4.19	4.23	4.23	4.23	4.24	4.24	4.24	4.24	49.85	4.15
利用(在所) 日数 (60床)	1,754	1,646	1,703	1,721	1,808	1,756	1,707	1,731	1,679	1,801	1,840	1,801	1,818	1,719	1,818	1,860	20,929	1,744.08
入院	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,800	1,860	1,800	1,860	1,860	1,860	1,860	1,740	1,860	1,860	21,960	1,830.00
実人数	1	4	4	2	3	4	5	5	5	4	1	4	3	0	3	40	3.64	
延日数	5	42	78	34	45	66	61	111	60	47	20	47	22	22	586	586	53.27	
実人数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.00
延日数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.00
居室稼働率(%)	94.30	91.44	91.56	95.61	97.20	94.41	94.83	93.06	93.28	96.83	98.92	98.79	97.74	98.92	97.74	1,143.67	95.31	
平成30年度 利用(在所) 日数		1,574	1,715	1,713	1,831	1,852	1,744	1,779	1,690	1,719	1,626	1,506	1,754	20,503	1,708.58			
平成30年度 居室稼働率(%)		87.44	92.20	95.17	98.44	99.57	96.89	95.65	93.89	92.42	87.42	89.64	94.30	1,123.03	93.59			

# 短期利用実績報告書

利用年度：令和2年度  
 サービス：21 短期入所  
 事業者：特養 えんじゅ  
 表示内容：利用実績表

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
利用者数														0	0.00%
利用延日数														0	0.00%
実収入														0	0.00%
実収入/日														0	0.00%
居室稼働率(%)														0.00%	0.00%
前年比(%)														0.00%	0.00%

平成31年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	25	25	19	25	25	26	28	29	24	26	24	24	300	25.00
利用延日数	183	214	171	187	234	217	328	312	249	250	252	267	2864	238.67
実収入	1,686,390	1,926,290	1,562,560	1,735,760	2,215,790	2,026,800	3,320,432	3,081,501	2,403,842	2,340,513	2,433,603	2,567,588	27,301,069	2,275,089
実収入/日	56,213	62,138	52,085	55,992	71,477	67,560	107,111	102,717	77,543	75,500	83,917	82,825	895,078	74,593
居室稼働率(%)	61.00%	69.03%	57.00%	60.32%	75.48%	72.33%	105.81%	104.00%	80.32%	80.65%	86.90%	86.13%	938.97%	78.25%
前年比(%)	58.65%	77.82%	68.95%	77.91%	108.32%	121.91%	167.34%	150.72%	105.95%	122.55%	308.05%	197.77%	1565.95%	130.50%

平成30年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
利用者数	33	31	30	31	31	27	30	36	34	28	18	19	348	29.00
利用延日数	312	275	248	240	216	178	196	207	235	204	79	135	2525	210.42
実収入	2,859,980	2,491,290	2,265,580	2,203,600	2,001,180	1,615,800	1,800,940	1,896,940	2,138,260	1,866,010	729,990	1,236,340	23,105,910	1,925,493
実収入/日	95,333	80,364	75,519	71,084	64,554	53,860	58,095	63,231	68,976	60,194	26,071	39,882	757,163	63,304
居室稼働率(%)	104.00%	88.71%	82.67%	77.42%	69.68%	59.33%	63.23%	69.00%	75.81%	65.81%	28.21%	43.55%	827.42%	68.95%
前年比(%)	208.88%	176.01%	153.21%	141.69%	101.95%	96.53%	93.07%	112.27%	122.89%	102.00%	42.27%	57.61%	1408.36%	117.36%

平成31年度

デイサービスセンター茶園

事業報告書

社会福祉法人伯和会

デイサービスセンター茶園

## 基本方針

在宅福祉サービスの目的と意義の実践に徹し、「安心・安全」「自立支援」「快適」といった基本理念に基づきながら、要介護者の心身の特性を踏まえてその有する能力に応じ自立した生活が営むことが出来るよう支援しました。また他者との係わり合いや自然とのふれあいを大切にし、長寿の喜びや生き甲斐を感じ取れるような活動を推進し提供する事により、利用者の社会的孤立の解消及び心身機能の維持、並びに利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減を図れるようにしました。

## 重点目標

- ・ 要支援・要介護者の心身の特性・生活環境・残存機能等を踏まえて、その有する能力に応じ自立した生活が営めるように支援しました。
- ・ 喜ばれ、安心させる温かい言葉遣いに留意しました。
- ・ 傾聴技法を取り入れ、全ての利用者の「声なき声」を察するよう努力しました。
- ・ 自分の大切な人にも自信を持って勧められるサービスであるように努めました。
- ・ 利用者から「どのように見られ、思われているか」を常に意識してケアを行いました。
- ・ おしつけではなく、利用者側の視点に立ち、利用者本位のサービス提供を行いました。
- ・ 利用者のペースに合わせ、落ち着いた安心感のある雰囲気作りに努めました。
- ・ 関係市町村・地域保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努めました。
- ・ サービスの質を高める為に各職員が福祉サービス提供の専門家としての自覚を持ち、自己啓発に努めました。
- ・ 通所介護計画を作成し利用者ごとのニーズを的確に把握し、個別性のある援助を行い、心身機能の維持・向上を図りました。
- ・ 利用者が楽しみながら参加できるレクリエーションの企画・立案に努めました。
- ・ 職員全員がサービス提供に当たり同様の認識を持ち、同質のサービスを提供するように努めました。
- ・ 処遇改善交加算の算定に見合ったサービス提供に向け、サービスの質、職員の質の向上に向けた取り組みを強化しました。

### 「通所介護」

要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図りました。

### 「介護予防通所介護」

要支援状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活の支援及び機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図り、利用者の生活機能の維持又は向上を目指しました。



## 「総合事業」

従来の介護予防通所介護と同様、地域包括支援センター等のケアマネジメントに基づき、適切な支援に繋げていく仕組みであり、自立支援の観点からその人によりふさわしいサービスの利用を実現しました。

## 事業計画内容

### 1、平成31年度 行事計画 (別紙1参照)

### 2、基本サービス主要実施概要

#### ・生活指導

- ・利用者・家族からの各種相談に応じると共に、連絡帳・茶園便り等を通し家族等との情報交換を密にしました。
- ・電話での相談や、送迎時などを有効活用し、家族との連携を図りました。

#### ・健康チェック

- ・血圧、脈拍、体温を測定・記録することにより各利用者の健康状態を量る目安としました。月1回の頻度で体重測定も実施しました。また、表情・顔色・声色・皮膚の状態などについても注意深く観察を行い、利用者の状態の変化をいち早く察知できるように心がけました。
- ・排泄状況・食事摂取量・水分摂取量・精神状態などについても観察し、異常が見られる場合はケアマネジャー・家族・主治医等に速やかに連絡すると共に、記録を残しました。

#### ・機能訓練(レクリエーション)

- ・介護予防の観点からより効果的に心身機能の維持・向上が図れるよう、各利用者のレベル及び主体性を重視した内容のレクを実施しました。
- ・月1回程度の割合で行事を取り入れ、季節感や社会との繋がりを実感できるようにしました。
- ・新しいものを積極的に取り入れ、利用者の意欲の向上に努めました。
- ・利用者の趣味や特技を生かした活動を積極的に実践しました。

#### ・入浴

- ・身体の清潔保持と精神的な満足感が得られるよう、利用者の身体状況に応じ一般浴・機械浴での入浴を実施しました。また、利用者の健康状態等を配慮し、場合によってはシャワー浴・清拭にて対応しました。柚子湯や菖蒲湯など季節ごとの変わり湯の実施については検討しましたが、準備、予算等から実施に至りませんでした。

#### ・食事

- ・利用者の嗜好並びに状態に応じた食事を提供しました。また、季節に合わせた行事食等の提供についても栄養士と相談の上、献立内容や味付けだけでなく、見た目にも楽しめる食事が提供を行いました。
- ・行事食については、メニューに応じて利用者負担も行ってもらい喜んでいただける内容に努めました。飲料については、お茶1種類だけの提供だけとなりました。

#### ・送迎

- ・利用者が安全かつ快適に乗車出来るよう、コース割りや送迎時間等に配慮すると共に、運転手は常に安全運転を心掛けました。送迎車両への乗降時の安全確保及び乗車中の利用者への声掛け・様子観察についても十分留意して行いました。
- ・乗車定員や送迎コースを勘案し、3～4送迎にて対応しました。

### 3、専門職としての職員の自覚と質の向上

- ・職員の資質向上を図るために、研修への参加を検討しましたが、日程調整がうまくいかず、あまり参加してもらうことができませんでした。近隣の施設の見学、実習なども協議にまでいかず実施できませんでした。
- ・会議・勉強会等を充実させ、福祉・介護に対する知識・技術の向上を図ると共に職員の意識統一を図りました。
- ・仕事に対する責任感や自己意識を高める為に、職員ごとの役割分担を明確にするようにしました。

### 4、地域との交流活動

- ・地域と密接した在宅福祉サービスを図るため地域の習慣や風土を理解し地域の拠点としての福祉サービスのネットワーク作りに努めました。
- ・ボランティアの有効活用に向けた取り組みを検討しましたが実現まで至りませんでした。
- ・他のデイサービス事業所とのネットワーク作りを進め、情報交換を行うことで円滑なサービス提供に繋がるよう努めました。

### 5、介護予防

- ・要支援1・2、総合事業対象者に対して提供しているサービス内容が、介護予防の内容としてより効果的であるような取り組みを進めました。
- ・必要なトレーニング器具等の購入について協議・検討しましたが、利用頻度、使い方などから選定できず、購入はできませんでした。

### 6、祝日営業について

- ・祝祭日の営業については利用者からのニーズも高く、今年度も実施しました。その際、職員の欠員により業務に支障が出ないように、職員間及び各課と調整しフォローしてもらいました。ゴールデンウィーク及び年末年始はシフトの都合上休業としました。
- ・臨時利用について、突発的な臨時利用等は受け入れており、前もって利用人数が少ない事が確定している日があれば、こちら側からの臨時利用の声掛けを行ない、利用者数の確保に努めました。

### 7、人員体制

- ・利用者のニーズに合わせたサービスを実施すること以外に、登録人数の増加や利用者の重度化、送迎に要する人員の増加と言った理由から、安定したサービス提供の為に職員の調整を行いました。

## 8、利用料金の徴収方法

- ・利用者から、1 回ごとの支払い準備が大変なので、1 ヶ月分を一括で支払いできないかとの希望も多かったことから、口座引き落としでの対応が行えるようにしました。

## 9、通所介護計画書の作成

- ・ケアマネジャーのプランに基づき通所介護計画書を作成し、利用者・家族の要望を反映させた個別性のあるケアを実施しました。作成したプランについて定期的に評価・見直しを行いました。
- ・プラン作成並びにモニタリングの際は、各職員で情報を共有し、互いの意見を反映させながら実施しました。

## 10、ケース記録の記載方法

- ・記録レベルの均一化とレベルアップのため、記録マニュアルの整備及び記録法についての勉強会を実施しました。
- ・単なる記録ではなく、ケアプランと連動し、目標の達成度や今後の援助方針の見直しなども把握しやすいような書式を検討しました。

## 11、アンケートの実施

- ・利用者・家族等からのニーズに沿ったサービス提供に向け、アンケート等を実施し、ニーズの把握に努めるとしましたが、企画、準備ができず実施に至りませんでした。

## 12、緊急時の対応

- ・利用者急変時など、緊急事態発生時の対応及び各課との連携についてマニュアルもとに対応しました。
- ・家族・ケアマネ・主治医等との協力体制についても周知徹底を図りました。
- ・必要に応じ、緊急時連絡表の再確認を随時実施しました。

## 13、感染予防対策

- ・研修会や勉強会を通し感染症に対する知識を深めようしました。
- ・感染症予防・感染症発生時の具体的なマニュアルを作成しました。
- ・感染症流行時期に係わらず、次亜塩素酸水で利用者の触れる部分の拭き取り作業を実施しました。

## 14、口腔ケアの実施

- ・口腔ケアの重要性について、職員・利用者・家族等に周知徹底し、利用者への実践を行いました。

## 15、リスク管理

- ・職員一人ひとりが「安全」に関して認識し、事故防止に努めました。
- ・事故防止の認識を高める為、定期的な研修等を実施するようにしました。また、事故報告書・ひやりはっと報告書を通し、事故発生の要因やリスク、再発防止策を協議し、事故予防への意識を高めるようにしました。

## 16、業務見直し

- ・利用者主体の質の高いサービス提供に向けて、随時業務の見直しを図るようにしました。
- ・利用者のみならず職員が働きやすく、やりがいを感じられるような職場作りを目指しました。
- ・職種ごとの役割分担を明確にして、介護・書類作成・送迎等の業務を全職員が一定レベル以上でこなせるような業務体勢作りに努めました。

### 総合事業対象者の受け入れ及び業務内容見直し

- ・現在、事業対象者(要支援者含む)と要介護者のレクリエーションを合同で行なっているがADL 状況や認知症のレベルにも大きな差が見られる為、事業対象者と要介護者のレク内容を分け、状態にあった内容のレクを実施できるか模索し検討しました。

## 17、加算算定の取り組み

- ・各種加算について、都度算定可能か見て状況に合わせた取得を行いました。

## 18、防災対策

- ・災害時の防災対策や避難方法等について具体的な動きや災害時の役割分担のマニュアルの確認を行いました。
- ・緊急時の安否確認や連絡方法等の確認を行いました。
- ・電気・水・その他消耗品等のより一層の節約を心掛けました。
- ・利用者参加の避難訓練を定期的に行ないました。

## 19、各課との協力体制について

- ・各課と協力体制の構築について協議し、送迎や行事、その他業務全般において円滑な運営が行えるように働きかけました。

## I. 令和2年3月最終週の登録者：定員25名

月		火		水		木		金	
17		17		16		19		21	
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5			
4	4	11	15	9	4	2			
実登録人数 48名				延べ登録人数 90名					

※要介護度別人数は3月のレセプト情報より集計

※総合事業対象者の要支援1相当は要支援1、要支援2相当要支援2へ含む

## II. 令和元年度利用状況 ※1か月延べ利用人数 ( )は一日あたりの平均利用者数

利用月	通所介護	前年度(30年)	予防、総合事業	前年度(30年)	1か月合計人数
4月	282 (14.1)	248 (11.8)	76 (3.5)	87 (4.1)	358
5月	261 (13.7)	257 (12.2)	78 (3.7)	93 (4.4)	339
6月	232 (11.6)	243 (12.1)	67 (3.4)	94 (4.7)	299
7月	257 (11.2)	270 (11.7)	81 (3.5)	92 (4.0)	338
8月	257 (11.7)	301 (13.6)	76 (3.5)	85 (3.8)	333
9月	265 (12.6)	249 (11.8)	73 (3.5)	61 (2.9)	338
10月	272 (11.8)	306 (13.3)	77 (3.3)	78 (3.3)	349
11月	260 (12.3)	259 (12.3)	73 (3.5)	70 (3.3)	333
12月	251 (12.6)	362 (18.1)	66 (3.3)	61 (3.0)	317
1月	218 (10.9)	248 (12.4)	56 (2.8)	66 (3.0)	274
2月	233 (11.7)	262 (13.1)	45 (2.3)	56 (2.8)	278
3月	264 (12.0)	345 (15.6)	41 (1.9)	58 (2.6)	305
年合計	3,052	※3,350	809	※901	3,861/30年度 4,251

## III. 活動内容

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
4月	豆つかみ	春うた	ポケネット	制作物	鯉のぼりゲーム
5月	鯉のぼりゲーム	ぐっとタイミング	数字合わせ	手作り屋食会	ナイスフィッシング
6月	さ傘でアタック	返せ返せ	七夕制作	七夕制作	
7月	大相撲夏場所	ふりふりゲーム	茶園カーリング	頭の体操	一網打尽
8月	一網打尽	ペタンク	夏うた	流しうーめん	勘考ゲーム
9月	取ったら負けよ	おはぎ作り	ふりふりゲーム	制作物	
10月	文字あてサッカー	園児交流会	茶園運動会	手と手を繋いで	割鍋閉蓋
11月	ふりふりゲーム	秋うた	芋煮会	カレンダー作り	
12月	カレンダー作り	ナイスフィッシング	忘年会	数字合わせ	
1月		正月遊び	干支作り	一網打尽	冬うた
2月	鬼退治	頭の体操	制作物	ふりふりゲーム	
3月	ペタンク	棒体操	風船運動	数字合わせ	豆つかみ

平成 31 年度

軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき

事業報告書

社会福祉法人 伯和会  
軽費老人ホーム ケアハウス やまぶき

# 平成 31 年度 軽費老人ホーム ケアハウスやまぶき事業報告

## 基 本 方 針

軽費老人ホーム(ケアハウス)は 60 歳以上(但し、60 歳以上の配偶者と共に利用する者についてはその限りではない)で所得を問わず、自炊生活が出来ない程度の身体状況且つ、家庭環境や住宅事情などの理由により在宅にて生活が困難な高齢者を入居させ、食・住などの日常生活に必要なサービスを提供し、生きがいを持って健康で明るい生活を送れるよう支援する。

## ケアハウスやまぶき 平成 31 年度事業報告資料

◎入居者の状況(令和 2 年 3 月 31 日現在)

人数 / 年齢

性 別	人 員	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男 性	14 名	93 歳	66 歳	79.6 歳
女 性	33 名	97 歳	68 歳	86.3 歳
合 計	47 名			全体平均 84.3 歳

年齢階層別人員

年齢 / 性別	男 性	女 性	合 計	比 率
60～65	0 名	0 名	0 名	0%
66～70	5 名	1 名	6 名	12.8%
71～75	0 名	0 名	0 名	0%
76～80	1 名	5 名	6 名	12.8%
81～85	3 名	7 名	10 名	21.3%
86～90	2 名	11 名	13 名	27.7%
91～95	3 名	8 名	11 名	23.4%
96～	0 名	1 名	1 名	2.1%
合 計	14 名	33 名	47 名	

月別入居者数(毎月末日現在の入居者数)

月 / 性別	男 性	女 性	合 計	入居率
4月	17名	31名	48名	96%
5月	17名	31名	48名	96%
6月	18名	30名	48名	96%
7月	18名	31名	49名	98%
8月	18名	31名	49名	98%
9月	18名	31名	49名	98%
10月	17名	32名	49名	98%
11月	17名	32名	49名	98%
12月	17名	32名	49名	98%
1月	16名	33名	49名	98%
2月	16名	33名	49名	98%
3月	14名	33名	47名	94%
(のべ)合計	203名	380名	583名	97.2%

※115号室・116号室の各夫婦部屋について、県の承認を得て1名での利用を開始。

そのため現在のところ満床でも49名まで。(但し入居率は、50床満床換算で算定)

平成31年度入退居者数

	男 性	女 性	合 計
入居者数	4名	5名	9名
退居者数	6名	2名	8名

年度内入居者の入居前の状況

場所 / 性別	男 性	女 性	合 計
自宅、家族宅	4名	5名	9名
病 院	0名	0名	0名
介護保健施設	0名	0名	0名
その他	0名	0名	0名
合 計	4名	5名	9名

年度内退居者の退居後の状況

場所 / 性別	男 性	女 性	合 計
自宅、家族宅	0名	1名	1名
病 院	1名	0名	1名
老人保健施設	2名	0名	2名
老人福祉施設	2名	1名	3名
死 亡	1名	0名	1名
合 計	6名	2名	8名



年度内月別入院者数(毎月末日現在の入院者数)

月 / 性別	男 性	女 性	合 計
4月	0名	1名	1名
5月	0名	1名	1名
6月	1名	1名	2名
7月	1名	1名	2名
8月	1名	1名	2名
9月	1名	1名	2名
10月	0名	1名	1名
11月	1名	3名	4名
12月	2名	2名	4名
1月	2名	2名	4名
2月	2名	0名	2名
3月	1名	0名	1名
合 計	12名	14名	26名

入居者の IADL 状況(認定外でも家族等の支援必要な者含む)

区分 / 性別	男 性	女 性	合 計	比 率
自 立	5名	5名	10名	21.3%
一部支援	9名	28名	37名	78.7%
合 計	14名	33名	47名	

一部支援内訳(重複あり)

区分 / 性別	男 性	女 性	合 計	比 率
入 浴	5名	12名	17名	36.2%
排 泄	4名	8名	12名	25.5%
歩 行	5名	19名	24名	51.1%
配 膳	5名	17名	22名	46.8%
通 院	7名	22名	29名	61.7%
掃 除	4名	11名	15名	31.9%
洗 濯	12名	8名	20名	42.6%

介護保険認定者数

認定外	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	合計
17名	2名	5名	9名	5名	7名	2名	47名

介護サービス利用状況(重複あり)

種別 / 性別	男 性	女 性	合 計
ヘルパー	5名	11名	16名
デイサービス	4名	11名	15名
合 計	9名	22名	31名

平成 31 年度年間行事実施内容

小野歌謡 4月16日	※内容：カラオケ・舞踊 参加者 30名 来設者 8名
あしたば民謡 5月21日	※内容：尺八・三味線・民謡 参加者 30名 来設者 12名
ハーモニカ演奏会 6月11日	※内容：ハーモニカ (日下文良様) 参加者：25名 来設者 2名
大正琴演奏会 7月4日	※内容：大正琴 (中央公民館) 参加者 25名 来設者 8名
白石カナリヤの会 8月7日	※内容：オカリナ (中央公民館) 参加者 16名 来設者 7名
グリーンローズの会 8月29日	※内容：フラダンス (中央公民館) 参加者 28名 来設者 8名
敬老会 9月11日	※内容：童謡 (中央公民館) 参加者 30名 来設者 33名
人権擁護講演会 10月23日	※内容：人権擁護 (大河原人権擁護委員協議会) 参加者 23名 来設者 6名
さくら会コンサート 11月8日	※内容：マンドリン、ギター、ピアノ (大河原) 参加者 28名 来設者 7名
あしたば白石 12月4日	※内容：ギター (あしたば白石) 参加者 21名 来設者 10名
三味線愛好会 1月22日	※内容：三味線・歌 (三味線愛好会・葉健連会) 参加者：24名 来設者 8名
若柳梅園会 2月12日	※内容：日舞・歌 (若柳梅園会) 参加者 24名 来設者 8名
八島義松様 3月18日	※津軽三味線・歌 (八島義松様) コロナウイルス関係で中止。

- 10月、下原地区清掃活動(クリーン作戦) (3月はコロナウイルスの為中止)
- 3月下原地区監査出席
- 3月下原地区総会、コロナウイルスの為中止
- 毎月、入居者懇談会

その他

① 入居者の健康管理等の支援

- ・ 入居者の保健衛生を積極的に推進するため、白石市住民健康診断の受診支援(職員が同行し送迎受診を)
- ・ 毎月1回、全入居者を対象に職員にて体重測定

② ボランティア等の受け入れ状況

- ・ 毎月第1月曜日にふれあい会 (ボランティアあったかい)
- ・ 七夕の飾りつけ (ボランティアあったかい)
- ・ 毎月第3金曜日に朗読会 (朗読サークルレモンの会)
- ・ 上記以外に月に1度行事(主にあしたば白石サークル)次ページ別紙参照

③ 園内販売(市内等での買い物困難者支援)

- ・ 毎週火曜日 岡崎商店(3月第2週より、コロナウイルスの為中止)
- ・ 毎週水曜日 ヤクルト(3月第2週より、コロナウイルスの為中止)
- ・ 毎週水曜日 白石クリーニング(3月第2週より、コロナウイルスの為中止)
- ・ 小十郎の郷による園内販売(おもしろいし市場に引っ越し。人員不足の為、対応困難で4月で休止)
- ・ 第3月曜日 スパッシュランド白石(10月15日、台風19号で、113号線不通の為、10~12月中止。1月実施。(2~3月はコロナウイルスの為中止)
- ・ 年2回、(春、秋)コダマ介護支援事業部(仙台)による衣料品お買物会の実施

平成31年度

特別養護老人ホーム みずき

# 事業報告書

社会福祉法人 伯和会  
特別養護老人ホーム みずき

## 平成31年度施設運営方針

### I. 施設サービスの向上のために

1. 法人の信条である「奉仕・博愛・寛容」を基本とし、施設基本理念「愛を持って心を込めて安心できる当たり前の暮らしが送れるように支援していきます」のもと、ご入居者の生活習慣、意志を尊重し、個々の好みや能力に応じた施設サービス計画（ケアプラン）を立て、慣れ親しんだ生活環境を整え、自己選択、自己決定、自律の助長を図り、幸せを感じられる生活が送れるよう個々のニーズに添った支援に努めました。
2. 介護給付対象サービスとして、入居者に対し、入浴、排泄、食事等の介護、相談等の精神的ケア、社会生活上の便宜、日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上のお世話を提供しました。
3. 社会福祉法人制度改革、費用負担の公平化、介護保険の改定など施設運営が大きく変化している情勢に対応する為、施設職員が目標に向かって邁進することが大切であることから、福祉サービスの充実により、地域住民と共に生き、安らぎのある地域社会を作り出せるような施設運営を行いました。

### II. 在宅福祉サービスの向上のために

1. 各関係機関との協力体制を図ります。
2. 施設においてボランティアの育成と拡充を行い、福祉の意識高揚に努めます。
3. 地域に支えられた施設であるとの認識を持ち、専門的な働きかけに努めます。
4. 在宅福祉の充実の為に施設の資源を提供し、地域との交流を積極的に推進します。
5. 各種の福祉サービスの利用法について啓蒙します。

上記のように活動しました。

### III. 職員が安心して働けるために

1. 働きやすい職場作りと、勤労意欲の向上を図ります。
2. スポーツ等を通じ、他施設との親睦に努めます。
3. 給与充実の為、介護給付費の処遇改善加算を活用します。
4. 年2回の職員健康診断を実施するとともに、日々、職員の健康管理に努めます。

上記の活動を実施いたしました。

### IV. 適正な事務の遂行のために

適正な施設運営を実施するために

1. 各種規定に基づいた事務を実践します。
2. 予算の適正な管理及び執行をします。
3. 業務の効率化を図ります。
4. 職種間の周知連絡を徹底します。

上記に努めました。

## V. 地域との連携交流を行うために

地域との連携、交流の取り組み

1. 地域交流の一環として、白石市福岡公民館まつりへ、生涯学習成果の入居者製作作品の出展を行う。
2. 地域交流の一環として、白石市健康福祉まつりへ、生涯学習成果の入居者製作作品の出展を行う。
3. 地域交流の一環として、福岡地区敬老会へ、該当入居者の参加を促す。  
上記のように活動いたしました。

## VI. 安定的経営基盤の確保のために

1. 安定した収入の確保に努めます。
  - ・入退居の期間を少なくし一定期間内で入退居が行えるように円滑に行います。
  - ・水光熱費、備品等の管理、見直しを適宜行い、経費節減を図ります。
  - ・各種加算の整備を行い、取得できるように努めます。  
経費削減・加算取得に努めました。
2. 施設の設備・備品等の更新・改善を行います。
  - ・入居者の重度化に伴い、各種福祉用具等備品の整備を行うと共に、状態に合わせた用具の購入を検討します。  
次年度も引き続き検討します。
3. 人材の確保に努めます。
  - ・福祉系等への学校へ出向き、ネットワーク構築を行います。
  - ・ハローワークへの情報提供、集団面接会への参加を積極的に行います。
  - ・外国人の労働者受け入れの情報収集と体制整備について検討します。
  - ・キャリアパス制度の構築、研修制度などの整備を行い、知識、技術の習得が行えるようにします。  
ハローワークへの情報提供、キャリアパス制度の構築に努めました。
4. 自然災害等防災対策に対し備えます。
  - ・非常災害時（地震、火災、噴火等）を想定した研修や訓練を計画、実施し、非常時の入居者、職員が安全に行動し避難が行えるように努めます。  
年2回の避難訓練を実施しました。

## 平成31年度施設援助方針

### I. 日常生活介護

施設サービスは、ユニット職員が、ご入居者一人ひとりの生活リズムを把握した上で、施設サービス計画に基づいて提供します。ご入居者の意思を尊重し、自立支援を念頭に、個々のニーズに添った支援に努めます。ご入居者の変化しやすい心身状況、日々めまぐるしく変化する日常もあわせ、適切なサービスの提供に努めました。

#### 1. 食事

食事は、ご入居者の慣れ親しんだ食器を使用していただき、生活習慣、嗜好に合わせた食事を召し上がっていただきます。ユニット毎にご飯の炊ける匂いや味噌汁の香り、食事準備の生活音を感じて頂き、家庭的な雰囲気をご心がけます。ご入居者が体調不良の場合は、ご入居者の状況と好みを考慮し、ご入居者に合わせた献立、食事形態で提供します。また、ご入居者に合わせた自助具等を使い、できる限り自力摂取できるよう支援させていただきました。

#### 2. 排泄

排泄は、可能な限りトイレをご利用いただきます。そのために常にトイレの清潔の保持に努めるとともに、トイレ内にある手すりや緊急コールボタンを利用し、安心して快適に使用していただけるようにしております。また、個人の排泄パターンを把握するために、排泄観察を行い、排泄記録をつけ、情報を共有し、ご入居者に合った排泄方法（オムツ交換・トイレ誘導）の実施にむけたケアに努め、気持ち良く排泄して頂けるよう支援しました。

#### 3. 入浴

個浴（リフト付き）、機械浴の2種類の入浴方法を用意し、ご入居者の身体の状態に応じた入浴サービスを提供します。入浴日は、ご入居者1人あたり週2回を基本とし、プライバシーを守り、安心、安全にゆっくりと気持ち良く入浴していただけるよう支援しました。入浴できない方に対しては清拭や衣類交換を行い清潔保持に努めました。また、できるだけマンツーマン対応でゆっくり入浴して頂けるよう考慮しました。

#### 4. 着替え

ご入居者一人ひとりの身体状況をよく見極め、衛生面に留意し、ご本人様の好みを尊重しながら着替えの支援を行いました。ご入居者の方の意思の決定を尊重し、衣類を自分で選んで頂けるように支援しました。原則として、起床時と就寝時の1日2回、着替えの支援を行いました。入浴後や衣服が汚れたときなども、その都度、着替えの支援を行いました。

#### 5. 移動、移乗、体位交換

ベッド、椅子、車椅子、便器、浴槽等の間の移動・移乗は安全性を十分考慮し、ご入

居者の身体の状態に合った方法で行いました。また、杖、歩行器、シルバーカー等の補助具を有効に活用し、できる限り自立移動ができるよう支援しました。

自分で寝返りをうつことのできないご入居者に対しては、褥瘡（床ずれ）を防止するために、体位変換の介助、体位変換チェック表の使用も行い、確実に実施できるように努めます。必要に応じて、クッション、エアマット、褥瘡予防マット等を使用します（ただしご入居者の自己負担が発生する場合があります）。

ご入居者ごとの最適な移動・移乗および体位変換介助方法を、すべての職員が同じ方法で行えるようにします。

上記のように努めました。

## 6. 整容

整髪、爪切り、髭剃り等を適宜行います。また、外出や行事の際には、ご要望により、ご本人の好みを尊重したお化粧やお洒落のお手伝いをしました。

## 7. 介護用品の選定及び衛生維持、安全点検

ベッド、エアマット、クッション、車椅子、歩行器、杖、介護テーブル、入浴補助具等の介護用品については、使いやすさと安全性から選定し、定期的に、その清潔の維持および安全点検に努めました（ただしご入居者の自己負担が発生する場合があります）。

## II. 日常生活支援

施設での充実した生活を図るため、ご入居者の生活習慣について、一人ひとりの好みに合わせた生活リズムで過ごして頂けるよう支援を行いました。

### 1. 居室環境の整備

ご入居者が自宅で使用されていた使い慣れた家具を持ち込んで頂き、他人の視線を気にせず、今までの生活が継続できる自宅と同じしつらえを確保できるように努めました。

### 2. 買い物及び代行

ご入居者のご要望により、外出による買い物支援の実施、職員による日用品の買い物を行いました。

又、週に1回近隣の商店の協力をいただき、施設内での買い物を実施しました。

### 3. 洗濯

日常の衣類の洗濯、乾燥、居室への返却を行いません。衣類の素材の状況に応じて、傷まないような適切な洗濯方法を選び、洗濯を行わせていただきました。また、施設内で洗濯できず、クリーニングへ洗濯を依頼する場合は、ご入居者実費負担となります。

### 4. 整容

頭部の清潔とお洒落を楽しんでいただくため、毎月、理容師によるサービスを提供しました（ご入居者実費負担）。ご本人の希望を伺い、理容師の方々とも相談しながら、頭の形や髪質などにも気を配りながら行わせていただきました。

### 5. 外出、外泊



外出・外泊については、心身の状況、外出・外泊先を考慮しながら、できる限りご入居者の意向に沿うようにしました。また、R2・2月～新型コロナウイルス流行の為外出、外泊を制限させていただきました。

#### 6. 金銭管理

ご希望がある場合は、現金、預・貯金の通帳、印鑑等の管理の他、施設利用料や公共料金等の支払い等を担当者にて適切に代行いたしました。（預り金等取扱規程に基づき、利用料を負担していただきます）

#### 7. 行政手続等の代行

ご入居者のご要望に応じて、市町村等に提出する書類の代筆、申請の代行、郵便物等の投函等を、その都度、担当者にて適切に代行いたしました。

#### 8. 要介護認定に関する代行、認定調査の付き添い

要介護認定の更新・変更申請をご入居者に代わって行います。また、更新調査における付き添いを行わせていただき、ご本人の状況などを更に詳しく調査員の方へお伝えさせていただきます。

### III. 健康管理

ご入居者が安心して生活できるよう健康管理に努め、疾病の早期発見・早期対応を行い、生活の自律性を維持できるように支援しました。

#### 1. 日常の健康管理

ご入居者の健康状態の細かな観察に努め、嘱託医および協力病院への連絡、職員間の情報交換を図りながら、健康維持に努めます。ご入居者の心身の状態を把握し、医師の指示に従いながら適切な処置を行いました。

#### 2. 定期健康診断

胸部レントゲン撮影、心電図、血液検査を、年に1回実施しました。

#### 3. 体重測定

毎月実施し、前月との著しい増減等がないか確認しました。体重変化に著しく違いが生じるご入居者や、栄養状態のチェックが必要なご入居者に対しては、その都度実施しました。

#### 4. 体温・血圧・脈拍等の測定

入居後、一か月バイタル測定を行い、平均値を出します。週2回の入浴前に定期的に体温、血圧、脈拍等の測定を実施します。その他、体調に変化が見られた際は必要に応じ、測定を実施させていただきました。

#### 5. 食事・水分摂取

チェック表により、毎日、食事・水分の摂取量を把握します。摂食不良時は、医師の指示の下、看護師、管理栄養士、ケアワーカー、介護支援専門員が連携して、その時々々の状況に合った食事の提供、水分補強、栄養素を補う対応をさせていただきました。

## 6. 医師の診察

月 4 回嘱託医が来診する他、月に 1 回精神科の医師が来診します。通院しての診療が必要な場合は、看護師、職員が付き添い、施設車両にて送迎をいたしました。

## 7. 口腔衛生

口腔衛生介助は、毎食後実施します。ご入居者の状態に合わせて、必要なかつ適切な口腔ケア用品の使用を行い、歯磨き、うがい、ガーゼによる口腔内の拭き取り、義歯の洗浄等、ご入居者一人ひとりの口腔衛生支援内容の充実を図ると共に、誤嚥性肺炎の予防等に努めました。

## 8. 服 薬

医師の診察のもと、病状に応じて、ご入居者に服薬していただきました。

## 9. 医療機関との連携

協力医療機関やご入居者の主治医との連携を密にし、日常の健康管理について適切な指示を得るとともに、緊急時の受け入れ先を確保しました。（救急車を利用する場合、他の医療機関へ搬送される場合もあります）

## 10. 夜間緊急時の対応

看護師が不在になる夜間・早朝帯のご入居者の容態の急変に待機の看護師が対応しました。（オンコール体制）

## 11. 感染症等の予防

感染症対策マニュアルに基づき、風邪やインフルエンザ、感染症予防対策として、ご来園者や職員に対して、うがいや手洗いの励行等の周知に努めました。

10月に、希望するご入居者に対してインフルエンザ予防接種を実施しました。高齢者施設で発生すると蔓延しやすい疥癬や食中毒等は、とくにその予防に努めました。

インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症対策の為、施設への来設やご面会を制限させていただきました。

## 平成31年度 嘱託医・協力病院

令和2年3月1日現在

1. 嘱託医  
毎週火曜日 午後  
水野内科クリニック 水野 圭司 先生
2. 精神科医  
月1回 第3金曜日 午後  
仙南サナトリウム 渡辺 吉彦 先生
3. 協力病院  
(1) 公立刈田総合病院（白石市）  
平成24年6月21日協定締結  
(2) 広瀬歯科医院 医院長 廣瀬 清憲 先生  
平成24年6月29日協定締結

## 平成31年度 防火、防災計画

避難が困難なご入居者が多い為、定期的な訓練を実施し、ご入居者及び職員に対し防火、防災意識の高揚と地域消防団、地域住民の協力体制を推進し確立します。

1. 非常災害対策計画に基づき、個別の防災対策の周知徹底に努めました。
2. 個別の避難方法を確立します。
3. 夜間及び休日の防災体制を確立します。
4. 消防設備器具、危険物施設の定期的な点検に努めます。
5. 災害時の非常食については、常時3日分を備蓄、保管します。
6. 緊急連絡網の確立を図りました。
7. 避難訓練実施

### 第1回（夜間避難訓練）

1. 日 時 令和元年5月31日 午前6時
2. 場 所 特別養護老人ホームみずき
3. 目 的 入所者の大半が障害を持ち、寝たきりや車椅子、杖などを使用している。これらの特殊性を鑑み、災害に対応するため、隣接の特別養護老人ホームえんじゅ・ケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園・白石市総合福祉センターとの共同により、防災体制の確立を目的として実施しました。

- |         |                           |
|---------|---------------------------|
| 4. 訓練内容 | 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練 |
| 5. 出火時間 | 午前6時                      |
| 6. 出火場所 | 特別養護老人ホームみずき3丁目洗濯室        |
| 7. 避難場所 | 各ユニットサニールーム前・正面玄関前        |
| 8. 職員構成 | 緊急連絡網による全員参加              |

第2回（避難訓練）

- |         |   |
|---------|---|
| 1. 日 時  | 令和元年11月7日 午後3時30分   |
| 2. 場 所  | 特別養護老人ホームみずき  |
| 3. 目 的  | 入所者の大半が障害を持ち、寝たきりや車椅子、杖などを使用している。これらの特殊性を鑑み、災害に対応するため、隣接の特別養護老人ホームえんじゅ・ケアハウスやまぶき・デイサービスセンター茶園との共同により、夜間の防災体制の確立を目的として実施する |
| 4. 訓練内容 | 放送訓練・消火訓練・避難誘導訓練・非常持ち出し訓練   |
| 5. 出火時間 | 午後3時30分   |
| 6. 出火場所 | 特別養護老人ホームえんじゅ棟デイサービスセンター茶園<br>パントリー電気コンロ  |
| 7. 避難場所 | 各ユニットサニールーム前・正面玄関前  |
| 8. 職員構成 | 職員勤務中による訓練  |



令和元年度 みずき外部研修参加者一覧

日付	研修内容	主催	参加費	会場	参加者
7月18日	ティーチング研修	県社協 (自主)	6000	フォレスト仙台	渡邊怜
7月30日	コミュニケーション・対人援助技術	県社協 (委託)	1500	宮城県管工事会館大会 議室	稲村歩美 <small>業務都合により不参加</small>
9月6日	口腔ケアの重要性とその効果		無料	宮城県介護研修セン ター	大庭直美
9月18日	医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ (初級)		無料	宮城県介護研修セン ター	渡邊勝枝
9月26日	職場のモチベーション研修	県社協 (自主)	6000	フォレスト仙台	大浦佑太
10月7日	医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ (中級)		無料	宮城県介護研修セン ター	柴田拓雄
10月9日	コミュニケーション・対人援助技術	県社協 (委託)	1500	宮城県管工事会館大会 議室	古山 康
11月26日	コミュニケーション・対人援助技術 (リーダー編)	県社協 (委託)	1500	宮城県管工事会館大会 議室	日下康史
11月28日	現場で役立つ感染予防と対策		無料	宮城県介護研修セン ター	相原恵子
12月3日	タイムマネジメント研修	県社協 (自主)	8000	フォレスト仙台	半澤香代子
12月10日	おむつ使いすぎませんか？下剤に頼りすぎませんか？		無料	宮城県介護研修セン ター	柏木一哉
1月27～29日	ユニットリーダー研修	ユニットケア推進 センター	100000	TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口	柴田拓雄